



鹿児島市立坂元台小学校

所在地：鹿児島市西坂元町58番地2号
電話番号：099-247-5515

●学級数：16学級
●児童数：405人



特色ある活動

- ・「せぼる隼人舞」を通じた伝統芸能の継承
- ・出番と居場所のある授業
- ・高学年に引き継がれるボランティア活動
- ・自他を大切に考える伝え合う活動 (Momの木の取組)

事業実施概要

11月16日(火)		
10:50~12:30	児童ワークショップ(3・4年)	127人
15:00~16:30	保護者・地域ワークショップ	15人
11月19日(金)		
8:30~10:10	児童ワークショップ(1・2年)	131人
10:25~12:05	児童ワークショップ(5・6年)	131人
15:30~16:45	教職員セミナー	19人

事業取組のきっかけ

1 これまでの学校の取組

(1) 本校の人権同和教育の目標

自他を大切にし、思いやりの心をもって相手の気持ちを理解し、学び合い、高め合いながら生活する子どもを育てる。

(2) 本校の児童の実態

- ・学習活動や行事などに積極的に取り組み、素直で明るい様子が生活している児童が多い。
- ・児童会活動や朝のボランティア活動など高学年の児童が主体的に日常活動を行っている。
- ・自尊感情の育成の面で、自分に自信がないと感じる児童の割合がやや高く、人間関係づくりに影響する状況がある。

(3) 人権同和教育の取組

- ・職員研修のテーマに人権同和教育を位置付けた研修の実施(本年度で3年目)
- ・自尊感情の育成とよりよい人間関係づくりを基盤とした学級経営の充実
- ・全校で取り組む気持ちを伝え合う「Momの木」(見つめる・思いをめぐらす・向き合う)の取組
- ・児童会スローガン「フワフワ言葉で笑顔を増やそう 仲良したくさん坂元台」に基づいた児童会活動

2 事業応募への思い

本校の学校教育目標「夢や目標をもち、自らを律しながら、共に学び共に伸びる子どもの育成」の具現化のためには、豊かな人間関係の構築が重要であり、その基盤となる自他を大切にしている行動力を培うことが肝要だと考えている。

これまで学級経営や教育活動全体を通して、集団の中の自分の在り方について考えてきているが、男女共同参画の視点など、自分と他者との関わりについて更に考えを深め、行動力を高める場として本事業に申し込んだところである。

実際に取り組んで

1 児童を対象としたワークショップ ～子どもたちの感想～

6つのしじで、えをかくのがいろいろみんながったけど、まわりのひとのえもすこかったです。わたしもいろいろなえをかけたのしかったです。(1年)

いろんなことをまなべたから、ともだちにもいっぴやさくできそう、グループわけたのしかったです。(1年)

絵をかくとき、しじにしたがってかくのは、はじめてだったのでとてもむずかしかったです。チーム分けをするのもむずかしかったです。また、新しいことばを知りました。こんなことばです。「あなたメッセージ」「わたしメッセージ」を知りました。まだまだ先があるので、今日ならったことをこれからしたいと思います。あと、かそくにもならったことを教えてください。(2年)

絵をかくときに、「これでいいのかな、みんな一緒にやなくていい。」と思って書いて、みんなのを見てみると、同じものや違うものがあって、絵の形がみんなそれぞれ個性も違う。答えもみんな違うところがおもしろかったです。(2年)

今日のお話は、とてもわかりやすく楽しい学習でした。わからないことばや、せりふなどがあって、わかりやすく教えてくれた方がいてとてもうれしかったです。みんなで話し合えると、とてもいいけんがありました。(2年)

「あなたメッセージで返すのではなく、自分の後ろの気持ちをわたしメッセージで返す」は今までもあなたメッセージで言ってしまうかもしないから、このやくそくはこれからも学校や生活に生かしていこうと思います。(3年)

みんな一人一人に「とくちょう」「こせい」があることが分かりました。これからは、自分のこせいを大切にしていこうと思いました。また、発表はちがいを作り、新しいものを生み出していくものだということが分かりました。これからは、わたしメッセージでもっと話し合いたいと思いました。(3年)

わたしは、最初に聞いた「ちがいはまちがいでない」という言葉が心に残っています。わたしは、いつも発表で手を挙げるかとてもまよってしまいます。でも、この言葉を聞いて、少し勇気ができました。これからは、できるだけ手を挙げて発表したいと思います。(4年)

ぼくは、クラスの中ではよく発表しています。しかし、同学年や全校生徒の前で発表すると緊張してしまい、今まで発表からにげてきました。「心のどこかで「もし笑われてしまったらはずかしい。」と考えている」と思います。今回の学習で「ちがいはまちがいでない」といい考えが出るかもしれない。」と思いました。まさに「みんなちがってみんないい」という言葉のとおりだなと思いました。話し合えば、それぞれちがった意見が出てふだんより話し合いが盛り上がりしました。これからもずっと生活に生かそうと思いました。(5年)

「YOUメッセージ」を「Iメッセージ」に変えて友だちと話し合えることを大切にしたらよいということを知りました。「あなたは～。」ではなく、「私は～だと思おうよ。」と相手をひはするのではなく、相手の意見をそんちょうして一つの答えだけにまどめず、みんなが納得できるように意見にすることが大切だということを知ることができました。同じ言葉を聞いているのに全然絵が違い、おもしろかったです。グループを見たけど全員で見たらひとりも同じ人はいないと思います。いろいろなこと知れてとても良い授業だったと思います。(5年)



いつもとは逆の左手で自分の名前を書いたり、しゃべらず、のそかずに絵をかいたり、初めての事をたくさんやって、「次は何をするんだろう。」とワクワクしながら学習ができて、とても楽しかったです。「大勢の人の前での発表はやりにくい」など、めくさんが私達の生活でよくある出来事を例に詳しく教えてくださったので、「なるほどなあ。」や「確かに。」と共感しました。これからは、一人ひとりの「ちがい」に気付き、「個性」と「能力」を大切にして、「Iメッセージ」をいっぱい使って、みんなが笑顔で自分らしく暮らせる社会をつくるために私ができることをいろいろしていきたいです。今日は本当にありがとうございました。(6年)

私は、みんなの前で発表したり、話し合ったりするのが苦手です。「みんなとちがったらどうしよう。笑われたらはずかしいな。」という思いがいつも出てきてしまい、発表しづらくなります。でも、今日めくさんが話してくださったおかげで発表や話し合いに対して自信ができました。みんなちがってあたり前だから、怖がる必要はないと思えることができました。これからは、はずかしがることなく発表に自分から進んで挑戦してみたいです。(6年)

2 教職員を対象としたセミナー ～教職員の感想～

子どもたちの様子から真剣に取り組んでいたのが嬉しかった。自分自身も“伝わらない”ということを確認し、子どもたち一人ひとりの思いや気持ちを大事にしなが工夫していきたい。

子どものワークショップから参加させていただき、とても勉強になりました。日頃の学校生活の中でYOUメッセージを発している自分も振り返りとして反省をする時間となり良かったです。日常どうしても評価をしている自分、プロセス評価を増やしていこうと思えました。子どもたちが過ごしやすい毎日を過ごせるようにIメッセージを発信していく意識を持ち、実践しようと思います。

子どもたちへのワークショップ、ありがとうございました。導入から子どもたちの「気付き」を大切に2時間で、とても深い学びになったと思います。シールを使ったゲームも私たちが思っていたよりスムーズに活動して新たな可能性を見出したような気がしました。ありがとうございました。放課後の研修では、男女共同参画社会についてたくさんのお話を学ぶことができました。未来を担う子どもたちのためにまずは大人であり教師である私たちがしっかりと学んでいかなければと感じました。

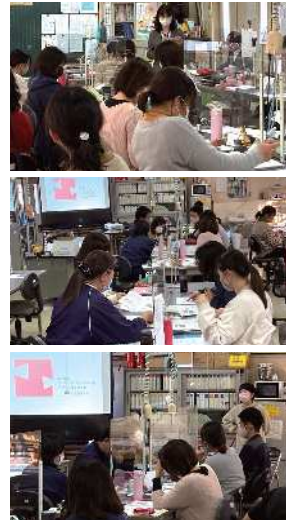
ワークショップの子どもたちの様子を見て、周りを気にして動けなかったり、発言するのをためらったりする子どもが多いことを感じました。「違いは間違いではない。」ということも私も意識して声に出して伝えていきたいと思えます。自分自身も日頃からIメッセージを心がけていきたいです。

ワークショップの目的と意義を共有しました。

5・6年生のワークショップを参観した際、子どもたちが最後進んで発表していたのに驚いた。子どもにどのような声掛け、話をするかが大切だと感じた。今までも説明の仕方や声掛けの内容などを考えながら学級経営をしてきたが、今回の研修で大切だと感じたことも生かしていきたい。

子どもたちとの関わり方を改めて考えさせられた。褒めたり、よさを伝えたりすることを意識して子どもたちとすごしていきたいと思う。

まず長時間にわたり、多くの（幅広い年齢層の）学習者のために熱いワークショップを展開してくださり、ありがとうございました。ジェンダー・・・そうですね。考えた年頃がありました。今も考えますが、自分の意志の発信の仕方については、改めて考える（見直す）機会になりました。子どもたちにとって身近なモデルである以上、自分自身適時振り返りしながら進めていきたいと思えます。



3 保護者・地域の方々を対象としたワークショップ ～保護者・地域の方々の感想～ 子どもたちが体験したワークショップと同じ内容で実施しました。

子どもに対しての声かけを改めて考えさせられた。これから生きていく中で、自分も子どもたちも自分の考えを堂々と言えるような環境にしていきたいと思った。

講座を受ける前は、難しい話の講座なのでは?と思っていました。個性や人のかかわり方、親と子の接し方について、これからどうしたいのかよく考えて見直すことができるようになった気がします。

小3の子どもの対応に悩むところもありました。講師のおっしゃるとおり、毎日「子どもはチャレンジしている」ということを忘れていたように思います。絵のワークショップも大変面白かったです。自分は思いもしない絵を描いている方を見ると、指示の仕方は1回言って「わかったでしょ!」の感覚はいけないあと反省もしました。少しずつ自分を変えられるように、子どもとも接したいと思えます。

“ちがいにそが宝物”と胸に響きました。子どもは毎日が始めてでドキドキだげなんだと、改めて考え、今日から、子どもへの声かけは、たくさんほめてあげようと思いました。男女、年齢、関係ないので納得するために選択して決定するのは、私の中でも行いたいと思えました。

言い方一つで攻撃的や否定的になることや、思考内化、外在化等のお話を聞いてとてもためになる話ばかりでした。子どもにもYOUメッセージで伝えるのではなく、Iメッセージを使って話すことや、男だから女だから、お姉ちゃんだからお兄ちゃんだからではなく、一人の人として考えることが大切だということも分かりました。子どもは、初めてで慣れないことばかりであることを心に留めて、今後もこの講座を活かしていこうと思いました。

子どもに言っていた言葉で、子どもを不安にさせたり、こわがらせたりしていたんだと思い、これからは、自信につながる選択できる言葉かけをしていこうと思えました。また、自分の意見を恥かしがらずに言うよう、違う意見を否定せず、新たな考えに結び付けられるようにしていきたいと思えました。



参観した方々

今回は初めて児童向けのワークショップを見学させていただきました。大人になるとなぜ?どうして?といった好奇心だったり、一番大事な事を忘れてしまいがちですが、たくさん子ども達の反応や、いきいきとした表情を見て、大人である私達の反応や言葉も時々振り返ってみなければと感じました。答えがない分、その時々で悩んだり、自分の気付かないところで相手の方を傷つけてしまったりしているかもしれない…。小さい時から自分のことも、相手のことも大切にできるように、ワークショップを通じて一人ひとりが心の中に感じ取れたことを日々の生活の中に落とし込んで、自然に身に付けられるように考え抜かれている内容がとても楽しかったです。

6年間に1回、全ての小・中学校の児童生徒がこのような授業を受ける機会があれば、「自分の大切さとともに、他の人の大切さを認めること」を考え、対話的な学びの充実、自己肯定感の向上にもつながると感じました。

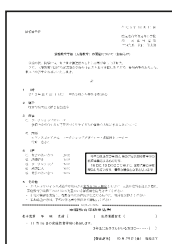
「違いを大切に扱う」「I(わたし)メッセージを伝える、大切にする」再認識するとともに、日々、子どもたちに伝えていきたいと思うことでした。教育従事者として、このような事業は大変ありがたいし、多くの学校に参加してもらいたいと思う。児童・保護者・教職員で学ぶ意義は深い。「子どもは、初めてにチャレンジし続けている存在」。身のこれまでを反省するとともに、親としても気持ちを改めることとした。

「違いは間違い」、「違いは宝」、「あなたメッセージではなく、わたしメッセージを。」「わたしメッセージで後者の気持ちをお話する。」、しゃべらずにグループ分けを行う活動後に、話せない人、日本語が話せない人の話、背中に貼った丸いシールについて、形ではなく色に着目した点から、人は違いに目がいくなど、大変勉強になりました。6年間に1回、全ての小・中学校の児童生徒がこのような授業を受ける機会があれば、「自分の大切さとともに、他の人の大切さを認めること」を考え、対話的な学びの充実、自己肯定感の向上にもつながると感じました。また、「早く宿題しなさい」など、あなたメッセージの例から、児童生徒向け、教職員・保護者・地域向けのワークショップの3つを行うことが、より効果的であることも分かりました。

学校からの報告

地域の方々等への事業取組の周知

- ・保護者向け案内文書の配布(10月11日)
- ・実施後、学校ホームページ上のブログに掲載(11月22日)
- ・学級通信への掲載



保護者への案内文



学級通信



ブログ

事業を終えて～今後の取組など～

本校は、いじめの未然防止にもつながる「自他を大切にできる人間関係づくり」に重点を置いて、学級経営の充実にも努めている。また、校内研修では、人権教育をテーマに、自尊感情の育成に係る研究を3年越して続けている。

児童会活動では、「温かい言葉を交わすこと」をテーマに、常時、取り組んでおり、保護者も自分の子どもの言葉遣いに対して課題意識をもっている。そのため、今回の児童向け、保護者向けワークショップは、とても効果的であった。

職員研修の内容も含め、児童向けのワークショップからも、Iメッセージが人間関係づくりには欠かせないこと、見方を変えることで気付きが生まれることなど、子どもとの向き合いを更に確かなものにしていく大きな示唆を得ることができた。

今後一人一人の子どものありのままを大切にしながら、確かな子ども観と深い関わりを通して、子どもたちとの信頼関係を深めていきたいと思う。



鹿児島市立瀬々串小学校

所在地：鹿児島市喜入瀬々串町3103番地2
電話番号：099-347-0009

●学級数：7学級
●児童数：94人



特色ある活動

- ・いも作りとボランティアゆうパック事業
- ・瀬々串棒踊りの継承
- ・伝統的瀬々串そば会食
- ・PTAと連携した瀬々串相撲大会

事業実施概要

11月22日(月)

10:20~11:50	児童ワークショップ(全児童)	93人
13:15~14:45	保護者・地域ワークショップ	17人
15:00~16:30	教職員セミナー	12人

事業取組のきっかけ

1 これまでの学校の取組

(1) 本校の人権同和教育の目標

人間尊重の精神を基にして、豊かな心情をもち、互いに認め合い、真心をもって助け合う実践力のある子どもの育成に努める。

(2) 本校の児童の実態

- ・素直で明るく、どんなことにも一生懸命に取り組むことができる。
- ・異学年交流を通して、上級生が下級生を思いやる様子が見られる。
- ・地域の方々とのつながりが深く、地域行事に積極的に参加する。
- ・自分の気持ちや思い・考えを表現することを苦手と感じている。
- ・単学級のためクラス替えがなく、人間関係が固定化されてしまう。

(3) 人権同和教育の取組

- ・いじめや差別を許さない学級づくり、分かる授業づくり
- ・気になる児童の情報交換(週1回)
- ・「心の教育の日」を位置づけ、地域・保護者参加の道徳の授業参観を実施(11月)
- ・にこにこ集会(劇や読み聞かせによる児童・教師参加型の集会)の実施(12月)
- ・人権擁護委員による「思いやりの心を育てる人権教室」の実施(12月)
- ・人権同和教育に係る職員研修の実施(6月)

2 事業応募への思い

本校では、全教育活動を通して、自分の大切さとともに相手も大切にできる児童の育成を目指している。また、いじめを考える週間(4・9・1月)やニコニコ集会(12月)などを設けて、人権同和教育に対する正しい認識と理解を深めるための取組を継続してきている。

また、本校児童の実態として、自分の気持ちや思い・考えを表現することを苦手と感じている様子が見られることから、自尊感情を高めたいと考え、本事業に応募した。

実際に取り組んで

1 児童を対象としたワークショップ ～子どもたちの感想～

いつもつかう手じゃないほうで名まえをかくのはむずかしかったです。(1年)

△や○を書くのは楽しかったです。みんなちがっておもしろかったです。人に見せるのはむずかしかったです。(1年)

ぼくは、今日、いろんなことを勉強しました。まず、ぼくはちょっとしか友だちにやさしくしていません。ぼくは、友だちにすぐおこったり、あやまってきても先生に言いつけて、なかりしてきました。今日まなんだことばをもって、やさしくして、友だちをなかせたり、おこったりしないように気をつけていきたいとおもいました。とてもたのしかったです。(2年)

「男だから、女だから」や「1年生だから、6年生だから」ということをやめて、一人一人の個性にきがつくことができました。みんなの前で発表するのははずかしいけど、この学習で少しだけはずかしくなくなった気がします。(3年)

いつも右手で名前を書くのでいつもちがいました。絵をかくのはかんなんだったけど、人それぞれちがうんだなと思いました。きょうりよく気持ちの勉強ができました。(2年)

さいしょ、いつも字を書かないほうの手で名前を書いたあと、「しゃべらない」「のぞかない」というルールを守って絵をかきました。絵はへんでこでわりました。みんなの絵が気になりました。ほかの人の絵を見ると、みんなちがいました。(3年)

男の子は～しないといけないというわけではないのははじめてでした。そして「だめ」とか「おかしい」というだけで人はきずつきやすいんだなと思いました。(2年)

話し合いでめぐさんが出したお題の絵のことを話し合ったとき、「みんなとちがったらどうしよう。」など不安がありました。でも、めぐさんの話を聞いていて、あまり感じなくなってきました。そして、わたしが一番心に残った言葉は「まちがいはせいこうのもの」という言葉です。めぐさんが話してくれたことを、こまっている子がいたら教えてあげたいです。とても楽しかったです。(4年)

ぼくはこの人権の授業で、ちがいはまちがいということが一番心に残りました。なぜならぼくは、今まで「ちがうというのがまちがいのかなあ」と思っていたからです。しかし、この授業のおかげで「まちがいは宝物」という大事なことを学べてとてもうれしかったです。また、この授業を行ってみたいです。(5年)

なぜ人間は人の前で話すのが苦手なのかを教えてもらったら、すこし自信ができました。自信をもって発表できるように、そして人と違う意見でもバカにないようにします。(5年)

学びの広場で特に心に残ったのは、絵を見せ合うときです。絵をかくときは何も思わずにしていました。絵を見せ合うとき、友だちとちがったので「えっ。」と思ったけど、みんなそれぞれちがったので安心しました。最初はうまく話し合いができなかったけど、友だちの絵を見て「雪だるまみたい」と言っていたり、「ロケットみたい」と言っていたりする人がいました。同じお題なのに人によってちがうということは、感じ方がちがうのかなと思いました。(5年)

ぼくはあらためて人権は大切なのだと思います。ぼくはあまり自分から手を挙げたことはありません。なぜなら、失敗したらどうしようと思ったり、あなたメッセージを言われたらとてもがっかりしてしまふからです。今日の学びの広場で、わたしメッセージを習ったので、いろいろな場面で使いたいと思います。また、利き手でない手で名まえを書くことも、絵を見せ合うことも、みんなとても個性的でおもしろいと思いました。(6年)



2 教職員を対象としたセミナー ～教職員の感想～

ワークショップの目的と意義を共有しました。

人権に関わる活動や学習において、毎回迷いや疑問、戸惑いを抱いてしまうのは、学びや実感、経験が不十分なためなのだろうと思う。頭では理解していても、本当の意味でその人の身になって考えることはできていないのかもしれないと反省する。今回の研修で、日頃の自分の言動で、時間を気にする日々で、先を急ぎせかしてしまうのは、自分中心の考えの表れだと改めて思った。待つことのできる心の広さ、許すことのできる自信や寛容な姿勢をもてるように努めたいと思った。どんな意見(感想)にも的確にコメントされる高崎先生の言葉の豊かさや引き出しの多さに驚かされ感心いたしました。ありがとうございました。

「違いの自覚」「違いの尊重」についてワークショップを通して、実感的に理解できるすばらしいプログラムだと思いました。また、これから、人口減少が進んでいく日本で、これからの日本を維持・発展させていくためにも、一人一人を大切に、違いを認め、尊重することが重要であることを学びました。高崎先生の声がとても聞き取りやすく、また、どんな意見や行動にも、的確に対応される引き出しの多さにも敬服いたしました。

子供たちの学びの場をつくり、一緒に参加することができ、大変よい研修になった。ちがいはまちがいでないという言葉が心にとこり、毎日の子供たちとの接点の中で、どうい言葉でかえしているのかなど考えさせられました。一人の人として、周りの友だちや大人を素直に受け入れられるような素地をつくっていききたいです。

「Iメッセージ」私は～と語れることの大切さを感じました。言葉で発言できる大切さは、日々の「個人」を大切にすることからだと思います。なかなか子供からの言葉が私の思っていることと違って「なんで？」と思い「ちがって！」と声掛けしてしまうことがありますが、日々子供たちは新しいことを学習していることに思いを巡らして、しっかり伝わる言葉かけをしていきたいと思えます。リフレインにより心に多くのこりしました。ありがとうございました。

ワークショップのねらい・進め方などよく分かりました。小学生への男女共同参画社会について理解させるためにどうしたらよいか考えていたのですが、大変参考になりました。難しい話をするのではなく、身近なちがいに気づかせ、深めていくことが大切であると思いました。ありがとうございました。

今回の研修では、子供たちの教育を担う教職員として、もちろん一人の人間として、自分や他者を大切に生きていくためにどのようなマインドをもって生活していけばよいかを考える機会となった。日々、子供たちと接していく中で、集団や属性としてではなく、個人一人一人の違いを認め合えるような学級づくりに努めていきたいと思う。

児童のワークショップにおける意図や目的が職員研修でよくわかりました。両方での自分の普段の発言を見直し、改善しなければと思いました。児童のワークショップは、低学年には難しかったかなと思いました。



3 保護者・地域の方々を対象としたワークショップ ～保護者・地域の方々の感想～

子どもたちが体験したワークショップと同じ内容で実施しました。

男女共同参画と聞いて参加したので、平等というお話を聞こうと思っていましたが、男性/女性という前に、一人の人間として、という考え方を大切にしていきたいことを学ぶことができ、とても心に入ってきました。社会のこと、話合いの仕方のことなど、考えさせられることも多く、また家でもう一度復習して自分のものになりたいと思いました。

子育てが済み、孫との関係を思い浮かべながらの勉強でした。今、86歳の叔母を見ることになっていて、それにも大切なかわりがあることに気づきました。ありがとうございました。

わたしたちは時々いろいろ小集団と交わりながら生活していますが、つい、固定観念にとらわれて、言ったり、行動したりしているように思います。今日のワークショップで自由な発想、個を重んじることが希望ある未来の子供たちを作っていくのだと考えさせられました。その姿勢で人との接し方を学んでいきたいと思えます。貴重な機会をありがとうございました。

家族に対してIメッセージが多かったことを反省し、YOUメッセージで子育てをやっていきます。

人の意見を否定するのではなく、傾聴し、すり合わせて新しい答えを出すということの大事を学びました。声掛けの大事で、人が変わることも分かりました。

私は、発表するのがすごく苦手ですが、今日の話聞いて、これからは思い切って発表もできるようにしようと思います。

普段の生活の中で、YOUメッセージを使っていることが多かったです。Iメッセージを大切に。子供たちもお姉ちゃんだからではなく、一人一人を見て大切にIメッセージで関わっていききたいと思いました。

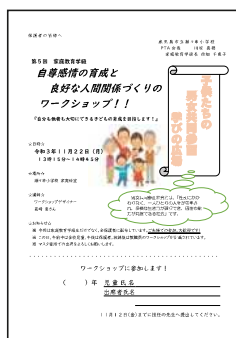
すばらしいすばらしい勉強でした。完全に男まさりで育ててきたわたしにとって、子供のころにこの話をしてくれる人にお会いしたかったです。



参観した方々

ちがいは宝物という言葉と人への思いやりを再度認識させられる自分でした。保護者地域のみなさまは、課長さんの説明を、資料を見ながら熱心に学んでおられました。その後、高崎先生のジェンダー平等の講義と人権の講義を受けた後、グループわけ、絵を見せ合った時の気持ちの発表というスケジュールでした。とにかく熱心に学んでおられました。この学びに参加した皆さんが、瀬川串地区の男女共同参画社会の推進役になってくださると思います。

地域の方々等への事業取組の周知



保護者への案内文

事業を終えて～今後の取組など～

事業後、ある学級では、道徳の授業の際、「みんなちがってみんないいのだよね。」と児童から自然な声が上がっていたという報告があった。「違い=まちがいでない」という言葉に、勇気づけられたと感じる。互いの違いを認め、自分に自信をもつとともに他者理解に努めようとする児童、教職員、保護者、地域でありたいと切に願う。コメントのポイントは「リフレイン&リフレイン」。大人であっても認めてもらえると嬉しいことを実感できた。児童の内なる力が湧く安心できる関係作りをチーム瀬川串として進めていきたい。



三島村立三島硫黄島学園

所在地：鹿児島郡三島村硫黄島80番地

●学級数：5学級

電話番号：09913-2-2106

●児童生徒数：22人



特色ある活動

- ・ジャンベ（西アフリカ伝統楽器）の演奏による達成感や自己有用感の向上
- ・ICT機器や遠隔システムの活用により多様な考え方に触れる授業
- ・地球（ジオ）科による硫黄島の地質や歴史、文化などの素材を生かした学習
- ・「しおかぜ留学生」の受け入れ

事業実施概要

10月6日（水）

14:10～15:00	児童・生徒ワークショップ（全児童・生徒）	22人
16:15～16:45	教職員セミナー	11人
17:30～18:30	保護者・地域ワークショップ	10人

事業取組のきっかけ

1 これまでの学校の取組

(1) 本校の人権同和教育の目標

「ボランティア活動や自然体験を実施するとともに、教育活動全体を通して、社会性や豊かな人間性を育み、人権尊重の心や態度を育てる。」

(2) 本校の児童・生徒の実態

- ・「しおかぜ留学生」が約半数を占めている。地元出身の子どもと異年齢集団での活動を中心に仲良く過ごしている。
- ・明るく、素直な児童生徒が多く、児童生徒会長の「学園から島を元気に」という合言葉をかけ、普通の授業や学校生活に取り組んでいる。
- ・土日の出入港の際には、来島者を歓迎するジャンベ演奏等を行っている。

(3) 人権同和教育の取組

- ・年3回の校内研修を行い、人権教育研修資料「陽だまり」や「仲間づくり」を活用している。
- ・子ども一人一人の情報交換を密にし、いじめ防止など人権を守るための共通理解を図る。
- ・各教科、学年の関連内容を教育課程に位置付け、普通の授業の中で意識して指導を行う。
- ・「心の教育の日」を12月の人権週間に設定し、人権教育をテーマにした、授業公開をPTAに向けて実施している。
- ・学校便りや学級通信等での人権同和教育の取組を発信する。

2 事業応募への思い

例年、12月に心の教育の日として、人権教育に関する授業を保護者へ公開してきた。その取組により、児童生徒、保護者の人権感覚を育ててきた。今年度赴任した職員より、本事業の良さを聞き、児童生徒の人権感覚をさらに向上させるとともに、職員の人権同和教育の充実や保護者の人権感覚の向上を高めるために、この事業に参加することが適していると考えた。

また、「しおかぜ留学生」の中には、不登校や対人関係を築けない児童生徒が多いため、コミュニケーションの望ましいあり方を伝え、他者理解や自尊感情の高揚を図りたいと考え応募した。

実際に取り組んで

1 児童・生徒を対象としたワークショップ ～子どもたちの感想～

きょうは、5じかんめにどうとくをやりました。つぎのことをまなびました。はじめてのことは、まちがってもだいじょうぶということをまなびました。(1年)

わたしは、5じかん目にいいことば、わるいことばのことをなりました。みんなそれぞれがちがってとてもおもしろかったです。みんなどうやって書いているのかな、考えてるのがなあと思いました。わたしもみんな、グッド!!! (2年)

お絵かきも楽しかったし、またやってみたいなあと思った。これから、ずっとわたしメッセージで話す。話す時は「あなたダメ」「あなたへん」とかではなく、わたしメッセージで話すことに気をつける。お絵かきの絵がみんなちがったし、どんな絵をかいているか、わからないから、おもしろかったです。(3年)

みんなちがっていて、みんないいという言葉の意味が分かって嬉しかった。たまに意味が言えなくて人をいやな気持ちになってしまう事があったから「私言葉」をうまく使って人をいやな気持ちにさせないようにしようと思った。絵を描いている時、こんなふうにはみんなは考えたんだないつもなら分からない事が分かった。(4年)

お姉さんが自ら質問をしていて、「人それぞれの性かがある」という言葉があり、とても共感しました。この学習を生活に生かせるように、言葉に変なところがないか気を付けながら生活したいです。(5年)

みんなそれぞれのこせいがある。「何で同じじゃないの」「あんたには、できないよ」という発信をする人もいる。ふりかえって見ると自分も友達にしているような気がした。男女共同さんかくまなびのひろばすいしんじぎょうで学んだことをいかしていきたくと思います。(6年)

今回の授業をうけて、ぼくは人それぞれだということが一番印象に残りました。理由は、みんな一人一人自分の個性を持っているからです。人の性格や体格を悪く言わずにその人の個性として受け入れてあげることが一番大切だと考えました。だから、これから人それぞれに自分の個性があるとあって、差別をしないようにしたいと思いました。(6年)

今日の授業では、特に与えられた指示に対して絵を書くのが印象に残りました。2個目の丸を書くときに8を描く人がいたり、◎を描く人がいたり、おもしろかったです。また、私は、発表や話し合いが好きなのでいいので、今日、みんな考え方が違うということを知れて、少し安心しました。これから学校生活を過ごしていく中で一人一人の存在、個性を大切に過ごしていきたいです。(7年)

僕が一番心に残っているのは「あなたメッセージとわたしメッセージ」でした。僕もあなたメッセージになっていることがあったので、わたしメッセージで話そうにしたいです。絵を描くゲームでは、しゃべらず、のぞかずだったので、みんなそれぞれ違う絵でとてもおもしろかったです。他にもみんな発表していて、自分と違う意見もあったので、なるほどと思うこともいくつかありました。一人一人違う意見でもあなたメッセージ私メッセージを心がけたいです。(7年)

リモートで受けたのですが、離れていても他の人と意見が交わって楽しかった。今日の授業で一番心に残ったのが「人の意見に反する回答を強く言うてはならないこと」です。人の意見に「おかしい」や「何これ」とバカにするようなことは無くなってほしいと思いました。社会に出てもあるとおっしゃっていたのでそういう人には注意が必要だと思いました。このような差別はなくなってほしいと思います。(8年)

今日の学習を通して絵をかいたことがとても印象に残りました。私がかいた絵とみんながかいた絵がちがってとてもおもしろかったです。下の「しかく」の所を私は縦にかいていたけど、みんなは横にかいていたのでとてもびっくりしました。自分のいつも持つ方の手でなく、違う手で書いたら、いつもより字がガタガタになってしまいました。私は今日の学習を通して、自分ができないことは恥ずかしいということを知ることができてとても嬉しかったです。(9年)

今日の授業では、最初名前を左手で書くという指示で、何でこんなことをするのだらうと思ったけど、あとの話し合い、見せ合いで、他人に対してYOUメッセージなのか、Iメッセージなのかを学ぶということを知って、びっくりしました。また、「発表は恥ずかしいことではない」ということはお心に残っています。私自身、案を出すのは好きだけど、他人に言うのはあまり得意ないのでこれから、話すときは、積極的に話したいと思います。(9年)



2 教職員を対象としたセミナー ～教職員の感想～

ワークショップの目的と意義を共有しました。

昨年度、極小で同じ研修を受けた者です。リモートでどうなるのかなあと思っていましたが、1、2年生の子どもたちにもよく分かる言葉で話して下さっていたので、最後まで集中して聞くことができていました。ありがとうございました。普段の自分の接し方について今年も振り返ることができました。

子どもたちのワークショップを参観しながら、自分だったらこんな風にかくかなと思っていただけると、やはり一人ひとり全然違う絵を描いていた「違い」というのが絵という形ではっきりと見ることができた。普段のかかわりの中で、同じことを授業であることを求めていることが多く、違う意見や考えに対して認められていないと反省させられた。これからの子ども達のかかわりの中でも私自身が子ども一人一人を認めるということを意識して、人権の中で学ぶということが日常の中で行えるようにしたいと思う。

今までも、この推進事業の生徒用ワークショップを受けていたのですが、内容はわかっていたが、職員研修では初めてで、このワークショップのねらいなどを行ったことはとても良かった。「違いの自覚と尊重」はとても大切なことであるので、様々な場面で児童、生徒に伝えていきたいと思った。本日は講師をして下さり、ありがとうございました。

男女共同参画の考え方を通して、お互いに認め合える一人の「日本人」を育てていきたいと強く思いました。子ども達への授業、教職員セミナー、保護者・地域セミナーと長時間にわたる講義に、川村さん、高崎さん、郡山課長の熱意を感じました。三島硫黄島学園のためにありがとうございました。

メグさんが「学校」「日本の教育」と伝えて講話をされたが、硫黄島学園はその環境で言えば、かなり異質であることを伝えたかった。

研修、特に地域、保護者の方の機会が少なかったで、ありがたかった。

時間の確保が課題、児童生徒、時数、職員研修について、勤務時間との兼ね合いを考えるべきである。



3 保護者・地域の方を対象としたワークショップ ～保護者・地域の方々の感想～ 子どもたちが体験したワークショップと同じ内容で実施しました。

何かがすっきりしたので、心がふらつた感じが授業の後に続いています。「十人十色」という言葉や「理由」という言葉を尊敬する人が大事にしていることを思い出しました。何より高崎先生が楽しそうに話されていたため、楽しく聞くことができて良かったです。僕も自身のアイデンティティーを磨き上げたいと思っています。

身近な例えでわかりやすく伝えて下さる点が良かったです。セミナーの進行のしかたが勉強になった。

素敵な講話でした。村は男尊女卑が根強く残っている習慣因習があります。今どきの感覚で言えばナンセンスですが、その文化の上に成り立っている島でもあるので、2年目にして感じます。良い悪いではなく・・・。その中で国際家庭ではかなりのイロモノなのですが、それをうまく利用している部分もありますね。みんなちがってみんないいみずすの言葉を実は自分の家で実践するのが一番難しい気がします。「教科書を聞くことに難しくなる」というのは、目からウロコでした。よりぞえるお母さんになりたいです。ありがとうございました。

あっという間の1時間でした。これまでの意識が少し高まり「ちがいの良さ」に気づいたように思います。本日の出席者の中にジャンベ留学生3名がおられ、積極的に発表もされていました。今後はかかわりを深めていき、お互いが楽しい島での生活を送っていきたいと思いました。本日はありがとうございました。

YOUメッセージ、Iメッセージ良い勉強になりました。子供たちに対する言葉かけを今一度考えなおす良い機会になったと思います。なかなか難しいことのようなのですが、一人一人をより理解していくしかないのかなと思います。「話し合い」実際はこちらからの一方通行で、どれほど理解してくれているのかも反応がないのでわかりません。

今日の話の中で気づかされた内容があり、日々の生活にこれから生かそうと思いました。

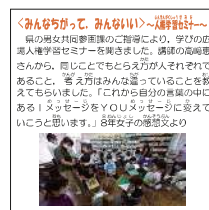
話を聞いて、プレッシャーから、ときはなれたかのように安心しました。なかなか自分の意見を話したり、わからないことを人に聞いたりするというのが苦手で相手の様子を先にくわがってしまいます。が、自分が出て来なくても恥ずかしいと思わず、思い切る！がチャレンジにもつながること、親も子も一緒に色々チャレンジしてみようと思います。ありがとうございました。



地域の方々等への事業取組の周知

10月末に発行する、学校便り「磯松」への記事掲載

- ・発行部数…約60部
- ・配布先…硫黄島全戸数、フェリーみしまへの掲示
- ・学校便り以外での周知…各学級通信にて内容や、子どもの感想等の紹介



【学校便り10月号】



指示を聞いて描いた絵の違いに驚いています。

事業を終えて～今後の取組など～

本校は、小学生と中学生が、一緒に校舎で学んでおり、児童生徒会活動など1年から9年までの異年齢での活動を行うことが多い。保護者に外国籍の方や外国で働いていたことがある方がおり、国際色豊かな面があり、考え方も多様である。また、子どもたちの中には、不登校などを経験し、学校へ行きづらくなり、「しおかせ留学生」として在籍している者もいる。

こういった、特別な環境の中で過ごしている子どもたちが「学びの広場」のワークショップを通して、指示絵描きにおいて、感じ方や考え方は一人一人違って、ことに気付いたこと、YOUメッセージとIメッセージの違いを理解し、言葉づかいを変えようとする姿を嬉しく思った。

子ども同士では、自分の思ったことをそのまま言葉にして相手を傷つけてしまっていることや小さなトラブルにつながっていることもあった。反対に、気を使わずに、言いたいことを伝えられずに我慢してしまうものもあり、コミュニケーションの在り方として、子どもたちはとても良い考え方を学ぶことができた。

職員も気付かないうちに使っているYOUメッセージに気づき改めようとする声があり、子どもたちとも良好な関係を築いていけるようになると思われる。保護者の中には、家庭での教育において、「叱る」場面で「これでいいのかな」と不安になりながら過ごしている母親もおり、一人一人は違っているということを確かめたことにより、安心感が高まっているようだった。ここでもIメッセージへの変換を意識するように考えていたことが印象的である。

一人一人の違いに気づき、YOUメッセージからIメッセージへの変換を参加者全員が意識することができ、互いに尊重し合う基盤がこれまで以上に固まったと思う。「学びの広場」は子どもたち、教職員、保護者、地域の方々と人権感覚を磨く一日となる良い機会だった。高崎さんを始め、郡山課長さん、川村さんに感謝したい。

この島では、伝統行事の上では「男性だけ」「女性だけ」を尊重する面があるが、それら伝統の良さを生かしながら、日常生活での「人権意識」を持ち続けられるように、学校から発信していくとともに、子どもたちの意識を高めていきたい。



枕崎市立桜山小学校

所在地：枕崎市桜山町256番地

●学級数：8学級

電話番号：0993-72-9883

●児童数：149人



特色ある活動

- ・地域の特性やつながりを生かした外部講師を招いた授業や校外学習等、特色ある教育活動
- ・きれいな花と元気なあいさつに彩られた教育環境
- ・図画作品展や新聞投稿等への積極的な応募
- ・積極的な学校情報の提供・広報

事業実施概要

11月2日(火)

19:00~20:30 保護者・地域ワークショップ 28人

11月15日(月)

9:35~11:20 児童ワークショップ(6年児童) 25人

15:30~16:45 教職員セミナー 14人

事業取組のきっかけ

1 これまでの学校の取組

(1) 本校の人権同和教育の目標

人権尊重の意識を高め、お互いを認め合い支え合って、共に向上しようとする子供を育てる。

- ・人権同和教育に対する正しい認識と理解を深めるための研修を推進する。
- ・各教科・領域等の全ての教育活動の中で、人間尊重の教育を推進する。
- ・人権を尊重する学級経営に努め、差別や偏見のない学校生活を創造する。
- ・人権を尊重する教育相談を推進し、一人一人の思いや願いを大切に教育を推進する。
- ・家庭・地域との連携を深め、家庭・地域における人権同和教育の啓発・推進に努める。

(2) 本校の児童の実態

- ・素直で明るい。何事にも真面目に取り組もうとする。
- ・縦割り班活動では、上学年が下学年に対して優しく教える姿がある。
- ・やや積極性に欠ける面がある。

(3) 人権同和教育の取組

(児童)

- ・全教育活動を通じた人権学習の実施
- ・人権ポスター、人権作文、人権標語等への取組・応募
- ・人権の花運動への参加(令和2年度)
- ・人権集会の実施(縦割り班によるレクリエーション・人権宣言の作成)
- ・スマイルウィークの取組(縦割り班によるレクリエーション・合同給食)

(職員)

- ・講師を招いての人権同和教育に関する研修の実施
- ・全職員による人権レポートの作成と職員連絡会における人権資料の読み合わせ
- ・学校便り、学級便り、PTA、家庭教育学級での保護者への人権問題に関する啓発

2 事業応募への思い

本校の児童は、素直で明るく、心優しい。また、日常の学習や学校行事に対して一生懸命に取り組もうとする。また、縦割り班活動では、上学年が下学年に優しく教える姿が見られる。しかし、1学年1学級しかないことから人間関係が固定化しやすく、積極的な行動が行われにくくなり、互いの新たな良さや頑張りに気付くにくくなるため、自尊感情が育ちにくいという面もみられる。

今年度は男女共同参画の視点から、学校内、学校間、家庭、地域など、広く連携して互いの違いを認め合い、積極的に行動した上での課題解決や、望ましい社会作りへ参画していこうとする意欲を育成したいと考え、この事業に申し込みをした。

実際に取り組んで

1 児童を対象としたワークショップ ～子どもたちの感想～

めくさんの説明が例を使って分かりやすかったです。(6年)

人それぞれがいろんな個性をもっていることがいいと思った。(6年)

人それぞれ考えがあるので、考えを一つにまとめるのではなく、広げていきたいと思います。(6年)

「それぞれみんながうわけじゃなく、同じところもある。」という言葉が心に残りました。そして、他の意見もしっかり分かってあげて、みんなが発表しやすい空気をつくってあげることが大切ということに共感しました。(6年)

いろいろな考えがあるので、自分が間違っていると思わずに「次がんばろう」と思えばいいと思った。(6年)

ちがいがあからこそ、今の社会ができていますかと思いました。(6年)

ぼくは弟の意見にいつも「絶対こっちのほうがいい」など理由を表さないままそうしていました。この学習を通して、しっかり理由を伝えるとよいことを学びました。「まだ何もできないの」などの一言によって相手を傷つけないようにすることを意識しようと思いました。これからは社会への見方が変わると思います。(6年)

これからは「YOUメッセージ」ではなく、「Iメッセージ」を取り入れていきたいです。(6年)

今まで「こっちのほうがいい」と攻撃的な言葉をよく使っていた気がします。これからは他の人とのちがいをしっかりと受け入れていきたいです。(6年)



2 教職員を対象としたセミナー ～教職員の感想～

ワークショップの目的と意義を共有しました。

左手で自分の名前を書くことは難しく、「慣れないこと」、「初めてのこと」に取り組むことは子ども達にとって不安であり、難しいことなので、私たち教師も子ども達の気持ちを受け止め、それに応じた声掛けをしていきたいと思いました。

情報非対象性、1つの指示でいろいろな捉え方をしているんだと思い、自分のイライラを減らして子どもと接するように心掛けたいと感じました。

「違いこそ宝」、「まず自分を大切にしよう」、「大人の自己肯定感が低いと子どもも低くなって当然」という言葉が心に響きました。また、指示は同じでも捉え方が全然違うことに驚きました。このような体験を通して学ぶことで、子どもたちの理解がより深まっていくのだと思いました。普段の授業や学級PTA等で取り入れられそうなものもあったので、今後に生かしていきたいと思えます。

違いを恐れず、自分の意見をしっかりと伝えることのできる人（Iメッセージ）・・・これからの社会でも大切なこと。コミュニケーションの本来の意味が分かりました。また、子どもたちの健やかな成長のために教師からの感謝の気持ちの言語化や指示の最適化を図るなど、意識して取り込むべきことをたくさん教えていただきました。

子どもたちが描いた絵を見せてもらいましたが、「違い」を認めるとたくさんの完成があると思うと同時に「違い」ということを理解していくことが大切だと思いました。子ども達が学校に来て楽しいと思える環境を作りたいと思います。

自分たちが無意識のうちにに出している同調圧力を子ども達に意識させない社会が広がればいいなあと思いました。

日頃の声掛けから見直していけないといけないと反省して聞いていました。子どもたちからすると、いろいろな受け取り方をしているのだから、違う理解が生まれてもおかしくない。当たり前であるが、このことを痛感できたので、よい学びになりました。



3 保護者・地域の方々を対象としたワークショップ ～保護者・地域の方々の感想～ 子どもたちが体験したワークショップと同じ内容で実施しました。

男と女を分けているつもりはなかったのに、無意識に行っていたことにショックを受けました。この意識をすぐに変えることはできないかもしれませんが、繰り返し経験していく中で少しでも変わっていったらと思いました。

知っていることを行動化することのできない自分があることに改めて気付かされました。日々の言動を今後見つめ直していきたいと思いました。

自分自身が日頃、接する周囲の人々にどのような声掛けをしているかを振り返り、頭で分かっているがなかなかできていないと反省しました。Iメッセージや周囲への声掛けをどのようにしていくかを日々意識することで、少しずつ身につけていけるとし、身につけることで、社会の在り方も変えていけるんじゃないかと思いました。

自分の中で無意識に感じていた固定観念が違うことに気付いて良かったです。なかなか自分の意見が言えないのはなぜかというのを的確に表現していただき、納得した。子どもたちと携わる中で意見の言いやすい環境をつくれたらと思いました。

人や同僚・子ども達と関わる上で、大切な考え方・伝え方、たくさんの言葉を学ぶことができました。社会で起きている何気ない同調圧力や確認欲求、俯瞰的に見ることができ、私自身もこれから分からないことは聞いたり、自分自身の気持ちも大切にしたりしていこうと思いました。

男女差別、子どもへの言葉、対応についてとても分かりやすく素直らしかったです。心に染みしました。



参観した方々

自分自身が日頃、接している周囲の人々に、どのような声掛けをしているかを振り返り、理解しているつもりでも、なかなか実際にはできないと反省しました。しかし、Iメッセージや周囲への声掛けをどのようにしていくか、日々意識することで少しずつ身に付けていると思いますし、身に付けることで社会の在り方も変えていけるのではないかと思います。

地域の方々等への事業取組の周知

- 11月・12月発行の「学校便り」に掲載
 - 発行部数…約400部
 - 配布先…桜山小学校区全戸数、市内各校、市教委、その他公的施設等
 - 学校便り以外での周知
 - 各学級通信にて内容や子どもの感想等の紹介
- (1) 案内文書
(2) 学校便り
(3) 学級通信
(4) PTA新聞（桜山小学校区全戸へ配布）
(5) 学校ブログ



保護者への案内文



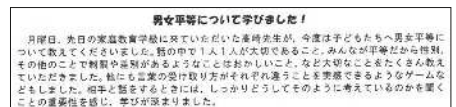
学校便り12月号



PTA新聞



学校ブログ



学級通信

事業を終えて～今後の取組など～

3年ぶりに本事業を実施することができた。性別等に関わりなく一人一人に「ちがいが」あることを実感するワークショップでした。

高崎恵さんの出す指示のもと、簡単な絵を描き、お互いの絵を見せ合いながら「絵を描いているときの気持ち」と「絵を見せ合ったときの気持ち」を話し合う活動では、「同じような絵の人もいれば、全然違う絵の人もいておもしろかった」、「考えることはそれぞれ違うと思った」など、描いた絵は、それぞれ違っているが、『ちがいが』は間違いでではなく、一人ひとりが持つ『個性』という素晴らしいものだということを実感していました。「人は違うのが当たり前である」、「違いがあるから新しい考えが生まれるし、進歩できる」と、「だれにでも初めてがあり、失敗するのが当たり前」ということ、「失敗を笑ったり、責めたりしてはいけない」ということなど、「ちがいがい」を豊かなものとして捉えることができるようになりました。

また、「あなたの言うことは違うよ」というような、「相手」を主語にして話す『YOUメッセージ』ではなく、「私はこう思います」というような「私」を主語にして自分の考えや気持ちを伝える『Iメッセージ』で話してみようという高崎さんの言葉を見ても、職員も、保護者も共感的に受け取りました。これからは、子供たち同士の話し合いや子供たちへの声掛け、学校や地域等の話し合いの場などでも『みんなちがう』ということと『Iメッセージ』を意識していきたいと思えます。